

「さて、今聴いてもらった曲だけど、みんなはどんな風に思ったかな？運動会、競馬、障害物競争、西部劇……そう、いろんな答えが聞こえてきたけど、どうかな？

でも、残念ながらこの曲は運動会も西部劇もまったく関係ないんです。ごめんなさい。これはただの音符の集まり。ミのフラットとか、ファのシャープが集まっただけ。曲の意味とか、この音楽は何か、なんてことについていろんな人がいろんなストーリーをつくり上げるけど、そんな話ここでは忘れてしましましょう。

ストーリーは、音楽が何かということにまったく関係ありません。この音楽は、このことについて語ってるなんて断言できるものじゃないんです。音楽は、ただ音楽というだけ。音符の集まり。美しい音がいろんな形で組み合わせたり、それを聴く僕たちを楽しませてくれるもの。ただそれだけなんです。いろんな人がこの音楽はなんですか、とか、この曲は何を意味してるんですかなんて尋ねてきますけど、これは非常に難しい質問なんです。〈中略〉

ウィリアムテルは、学校の運動会にも競馬にもまったく関係ないんです。なぜなら、この曲は綱引きや運動会や競馬場にも行ったことのないイタリア人、ロッシーニという人が作曲したからです。みんなが運動会とか競馬って思ったのは、この曲がそういうところでしょっちゅう使われてるからなんですね。

でもロッシーニはこの曲を「ウィリアムテル」というオペラの序曲として書いたんです。舞台はスイス。でもそうになると、みんなが聴いた曲は、ウィリアムテルとスイスを意味するということになるかな？違うよね。ウィリア

ムテルでも競馬の騎手でも電気スタンドでも何でもない。そんな特別な物を意味するわけじゃない。

だったらどうして、こう、体がわくわく動いてくる感じがするんだろう。それにはたくさん理由はあるんだけど、全部音楽的な理由だけ。そこが大切なポイントなんですよ。

まず、リズム。なんか、馬に乗って走ってるようなリズム。太鼓の音はなんか競争したり戦っているようなリズム。でも、だからといって、この音楽は太鼓とか馬とか戦いを意味してるわけじゃない。大切なのはこのリズムが僕たちを興奮させ、ワクワクさせてくれること。ワクワクする理由としてはこのほかに、力強い旋律もあります。覚えやすく、なんか……血が沸き立ってくる感じ。

<中略>

ワクワクするのは、ワクワクさせるように音楽が書かれているから。これは音楽的なことが原因で、他に理由はまったくないんです。でも、それが本当ならなぜ作曲家はそこに題名をつけるのでしょうか。交響曲とか三重奏とか作曲番号〇番でもいいはずです。『魔法使いの弟子』なんて曲もあるけど、音楽的にそれほど重要じゃなかったら名前をつける必要もないはずです。

でも、作曲家は自分のまわりに起こったことに影響されたときなんか、そういうことをしたがるんです。自分が読んだ物、見たり体験した物……みんなだって何か自分が起こったとき、踊ったり歌ったりして、自分の気持ちを表現してみたくなることってあるでしょう？絶対あるよね。作曲家にもあるんです。<中略>

音楽の意味っていうのは、これなんです。シャープとかフラットとか和音とか、むずかしいことをたくさんわかる必要はないんです。もし、音楽が何かを私たちにいおうとしているなら、その何かというのは物語でも絵でもなく、心なんです。もし音楽を聴いて、私たちの心の中に変化が起こるなら、

音楽が私たちにもたらすいろいろな豊かな感情を感じることができるなら、みんなは音楽がわかったことになるのです。音楽とは、それなんです。物語や題名はそれに付随したもの。

そして、音楽が素晴らしい点はみんなにいろいろな違った感情をもたらすことができること。それには限界なんてないんです。そしてその感情は時として、非常に複雑で深く、言葉ではいい尽くせないほど素晴らしいことがあります。感情をどういったいいのかわからないときってあるでしょう？もちろん、喜びとか楽しさとか穏やかさとか、愛とか嫌悪などと、表現できることもあります。でもあまりにも深く感動したときには言葉にならない。そこが音楽の素晴らしいところなんです。なぜなら音楽は、言葉の代わりに音符で表現できるからです。

音楽は音符の動きです。忘れてならないのは、音楽は動いているということ。たえずどこかへ動き続けます。音符から音符へ飛んで、変化して流れていきます。そしてそれが、何百万という言葉でもいい尽くせない心を伝える方法なんですね」